

学校法人 三育学院

(学校名) 三育学院大学・短期大学・カレッジ

(年 度) 2009年度(平成21年度)

事業報告書

序文

2009年度も、神が三育学院大学・短期大学・カレッジを導いて下さったことを心から感謝いたします。SDA 教団理事、学校法人三育学院理事、教会員の皆様のご指導、ご支援に対し、篤く御礼申し上げます。教職員一同奉職させて頂き、年度が終了しましたので、事業の概要を報告いたします。

1. 2009年度 学生数

(1)三育学院大学 看護学部 ※2008年開学

(2009年5月1日現在)

学部・学科	学年	学生数
看護学部	1年	51名
看護学部	2年	31名
合計		82名

(2)三育学院短期大学 ※英コミ=英語コミュニケーション学科

(2009年5月1日現在)

学部・学科	学年	学生数
英コミ※	1年	20
英コミ※	2年	9
看護学科	3年	55
専攻科		28
合計		155

科目等履修生：7名（英語コミュニケーション学科）

※休学者を含まず

(3)三育学院カレッジ

(2009年5月1日現在)

学部・学科	学年	学生数
神学科	1年	6
神学科	2年	3
神学科	3年	6
教育学科	1年	1
教育学科	2年	1
合計		17

科目等履修生：1名(神学科)

学生数(正規生)： 合計 (2008/5/1) 205

科目等履修生： 6

休学生：2

2. 卒業生などの進路状況

(1) 短期大学 英語コミュニケーション学科卒業

進学：3 就職：0 その他：2

進学先 海外2、カレッジキリスト教教育学科1

(2) 短期大学 看護学科 卒

進学12：三育大学編入5、専攻科6、他学1

就職41：東京衛生病院(系列)10、神戸アドベンチスト病院(系列)6、

アドベンチストメディカルセンター(系列)1、他病院24

(3) 短期大学 専攻科

東京衛生病院(系列)2、神戸アドベンチスト病院(系列)1、他病院等23、

その他2

(4) カレッジ 神学科

カレッジ神学科

三育中学1、教団出版部1、系列外病院1

(5) カレッジ 教育学科

カレッジ教育学科 0

3. 2009年度 教職員数

学 長：上田 勲、学務部長：東出克己、事務局長：黒須 潤

専任教員：44(大22、短10、カ5)

職員：21(大16、短4、カ1)

4. 2009年度 学校目標・主なプロジェクト

(1) 学校の目標

ミッションステートメントに示しているように、「全人的な回復」を究極的な目標とし、神を全ての価値の源として真理を探求し、自己と他者の尊厳を重んじ、社会に貢献し得る人材の育成を育成すること目標としています。

(2) 三育学院大学開設2年目

2009年度は、大学開設2年目となり、定員50名に対し、51名の学生を迎えました。今後も本学の建学の精神を理解し、看護師としての志を明確に持ち、医療に携わる専門職者として活躍を期待できる学生確保に向けて継続的に努力をして参ります。また、本学の特色の一つである海外のネットワークを活かした教育の一環として、海外研修がテネシー州にある系列のサザンアドベンチスト大学が行われました。海外での経験は学生にとって学習目的また意欲向上の大きな機会となっています。国際的に活躍する人材育成をめざして参ります。

(3) 教員の人材育成

三育の高等教育を充実していくためには、新設の四年制大学の人材育成はもとより、カレッジ、短期大学の長期的な視点から人材育成は欠かすことはできません。教団の支援を得て神学科教員がボストン大学より博士号を取得(神学博士)しました。また、現在看護学科教員2名が博士課程後期に、1名が博士課程前期で研修を行っています。今後も教員のアップグレードを積極的に勧める予定です。教員研究費の増額や学内共同研究費を新設し、大学からカレッジまでの教員の研究活動をサポートしています。特に、専攻科の教員は学内共同研究費を利用し、千葉県南の自治体と共同で調査活動を行い高い評価を得ています。

(4) 学生募集の充実

大学開設2年目を迎え、51名の入学者を迎えました。また2010年度の希望者は2009年度を大きく上回っています。

短期大学専攻科は、1年課程の保健師養成校が少なくなっていることから、好調で、25名定員のところ27名の入学者を得ました。英語コミュニケーション学科の募集については、教会や卒業生などの紹介により例年より多く20名の学生を確保す

ことができました。カレッジは神学科が6名、教育学科は1名の新生を得ることができました。

(5) 自己点検・自己評価

教育内容充実のためには1年間の活動を総括し（自己点検・自己評価）、次年度につなげる必要があります。2009年春の研修では、「三育学院総点検」として研修会を行い、各部で自己点検・自己評価を行いました。2009年度前期には一定の資料を整備し（「学生による授業評価」ならびに教員の授業の自己点検・評価なども含む）、2011年度の大学完成年度には、自己点検・自己評価を公表できるように年々整備していく予定です。

(6) 21世紀募金（ステージⅡ）

本学は大多喜に移転して30年以上が経過し、施設の老朽化に伴う修繕・補修活動が急務となっています。これを受け、「21世紀募金」も今までの大学の設置にかかる募金から、教員の人材育成やライフラインの整備のための募金活動に発展的に変更することとなりました。理事会の承認を得て、2008年度より「21世紀募金（ステージⅡ）」をスタートしております。

5. 建物設備の新築や修理等

大多喜に短期大学、カレッジが移転して30年以上が経過しました。新校舎建築に関連して1号館裏の中庭の整備が進行中です。芝生を張り終えさらにキャンパスの美化を進める予定です。電柱のトランス交換、構内の高圧電線の交換も近い将来の課題です。

6. 学校財務・学校経営の取り組み、中長期計画の取り組み

(1) 英語コミュニケーション学科の中長期計画

大学認可申請時に法人審査室より、「定員の70%以下の充足率である短期大学英語コミュニケーション学科の在り方について検討するように」との留意事項を付されました。2008年4月に学内に、「英語コミュニケーション学科特別委員会」を設けました。設置母体である教団と継続的に検討し、2009年12月には、文部科学省に収容定員を80名から40名（入学定員は40名から20名）へ変更することを届け出ました。

(2) 緊縮財政

2009年度以降、四大認可申請の際に教員審査をパスした教員が揃うこととなります。2009年度は、大学・短期大学・カレッジと3つの学校で設置基準を満たす教員数を確保しながら大学教育を運営しております。特に、募集停止した短期大学看護学科は最終学生の3年生のみ存在することになりますが、国家試験を受けるために

は一定の教員を確保しなければなりません。(これらによって2009年度は一番教員数が多い年になります。)

一方、国庫補助については、短期大学が募集停止により国家補助対象外となり、大学の4学年分ではなく2学年分のみが対象となりました。これらに対応するために、大学設置に当たり必要とされる予算以外の諸経費を見直すことにより緊縮財政を取りました。

(3) 高大連携

少子化により、学生募集がますます困難になってきています。これらの動きから高校と大学の連携(高大連携)が加速しています。本学も教員を派遣し、広島三育学院のカリキュラムの一部を担当するなど高大連携をさらに強めています。いずれは単位認定なども視野にいれた段階まで進めていきたいと思っています。

7. その他(重要事項)

SDAの高等教育の在り方を検討する「高等教育専門委員会」がスタートし、大学の在り方だけでなく、カレッジ、短大の中長期戦略について検討しております。